将来的にプロジェクトマネージャーになってみたいと考える皆さんに、マネージャーとしてプロジェクト管理をする上で欠かせない素質や専門性、キャリアパスなどを詳しく紹介していきます。

プロジェクトマネジメントの仕事を目指す上で、どんな人がこの職種に向いているのかという資質やスキルは、多くの人が気になるポイントだと思います。また今現在、プログラマーやシステムエンジニアとして開発現場にいる場合、プロジェクトマネージャー（PM・プロマネ）と一緒に仕事をしていても、この職種の具体的な業務内容や作業範囲が掴みきれないこともあるでしょう。

そこで今回は、将来的にプロジェクトマネージャーになってみたいと考える皆さんに、マネージャーとしてプロジェクト管理をする上で欠かせない素質や専門性、キャリアパスなどを詳しく紹介していきます。

**プロジェクトマネージャーに求められる5つのスキル**

総合的な責任を負うプロジェクトマネジメントでは、次のスキルのどれか1つが重要というわけでなく、バランス良く全ての知識や経験を持つ人材であることが理想となります。

**管理スキル**

システム開発などのプロジェクトを成功させるには、スケジュールや予算、人材などの計画を立て、状況に合わせて調整をする管理能力が必要不可欠です。マネージャーの工夫でコスト削減に成功すると、それだけ会社の利益がアップします。

**テクニカルスキル**

各工程の担当者やお客様と話をする機会も多いプロジェクトマネージャーには、クライアントの業務内容や、開発に使われている技術知識なども欠かせないスキルです。また、コストの算出や人員計画などをきめ細やかに進めるには、各工程でどんな作業をおこなっているかを把握しておく必要もあるでしょう。

**分析、問題解決スキル**

プロジェクト全体の舵取りをするプロジェクトマネージャーには、問題発生時に原因を想像し、的確な分析により理想的な打開策を考える能力も求められます。そしてコストや人員の負担を軽減するためにも、現状のプロジェクトの問題点を常に分析し続ける姿勢も必要です。

**コミュニケーションスキル**

調整役も担うこの職種には、プロジェクトに携わるメンバーやクライアントといった多くの人と円滑なコミュニケーションを図るスキルも欠かせません。メンバーとの間では、ただ仲良く会話をするのではなく、リーダーシップを発揮する能力も求められます。

**ビジネススキル**

開発現場の代表としてクライアントと話をするプロジェクトマネージャーには、業界内における動向やITソリューション全般をわかりやすく説明できるだけの知識が必要です。また日進月歩の勢いで技術革新が進むIT業界で活躍するには、専門メディアなどに目を通し最新情報を収集する姿勢も求められます。

**プロジェクトマネージャーに向いている人・必要となる素質や適性5つ**

円滑なプロジェクト管理のできるプロジェクトマネージャーは、次のような資質や適性を持っています。

**プロジェクトを俯瞰的に見られる**

プロジェクトを成功に導くためには、常に全体を見渡しながら管理・分析を続ける姿勢が求められます。また最終目的地に向けてチームを引っ張る存在となるプロジェクトマネージャーの場合、1つの物事に集中しすぎない性格が理想です。

そのため、現段階で1つの問題に携わるとまわりが見えなくなる傾向のある人は、今のうちから物事を俯瞰して見る習慣を付けるトレーニングをしてみてください。

**クライアント目線を持っている**

クライアントに最も近い存在となるプロジェクトマネージャーは、お客様が求めるニーズを迅速に汲み取り、形にする役割を担います。そのため、システムなどを作る側の視点だけでなく、「クライアントが何を考えているか？」を想像する素質も必要です。

**人間関係の構築に炊けている**

クライアントやメンバーといったそれぞれの立場による考え方の違いを受け止め、双方が納得できる道を模索する調整力や交渉力も、プロジェクトマネージャーに欠かせない資質です。

プロジェクト内でより良い人間関係が構築できれば、現場で生じた問題もスムーズに解決しやすくなります。また当然のことながらこの適性に長けたプロジェクトマネージャーは、プロジェクトに関わる多くの人から信頼を得られやすいです。

**抽象的な事項を具体化することができる**

この職種の権限や役割は、プロジェクトの中でも曖昧になりやすい傾向があります。そのため自分の立場を具体化し、強い推進力で業務を進めるリーダーシップも欠かせない適性です。

またIT技術に詳しくないクライアントの場合、要望や意見を抽象的な表現で伝えてくることもあります。この場合は、お客様の話を自分なりに噛み砕き、現場で対応作業をおこなうメンバー向けに落とし込むスキルも円滑なプロジェクト管理には欠かせません。

**変化に対して柔軟に対応できる**

システム開発などのプロジェクトでは、必ず何らかの問題や例外が発生します。トラブルにより作業が計画通りに進められなくなったときに、その状況に合った対応を柔軟に見つけ出す素質もプロジェクトマネージャーには必要です。

**プロジェクトマネージャーの仕事内容・役割**

プロジェクトマネージャーの仕事はまず、クライアントのニーズを聞き、その実現に必要な予算や納期の調整・交渉をすることから始まります。希望納期までに作業を完了させるために、人員確保や資材などの環境を整えるのも、プロジェクトマネージャーがおこなう重要な役割です。

実際にプロジェクトが稼働すると、まず要件定義、基本設計、詳細設計をおこないます。開発自体はエンジニアやプログラマーに任せることが多いものの、テストの確認やリリースまでの実務なども担当し、進捗状況や品質、トラブル対応などの全体的な管理もおこないます。

**要件定義**

プロジェクトマネージャーの仕事で、一番重要になるのが要件定義です。クライアントにヒアリングをおこない、解決する課題と想定しているイメージ、スケジュールや費用などをまとめていきます。

プロジェクトのゴールである「どんなシステムを作るのか」など、プロジェクトの基盤になる部分を定めていくのです。

**基本設計**

定義した要件をもとに、システム全体の設計図を書いていきます。共通モジュール、機能などを具体的に設計していくのです。

誰が書くかは決まっていませんが、プロジェクトの全体を把握しているプロジェクトマネージャーがおこなうこともあります。

**詳細設計**

基本設計をもとに、画面などの詳細設計をしていきます。この工程は多くの場合、システムエンジニアが担当します。

全体を把握しているプロジェクトマネージャーは、出来上がった詳細設計の確認と修正をおこないます。

**テスト**

構築したシステムが正常に動くかをチェックし、評価していきます。プログラマーやエンジニアがおこなうことが多い工程で、テストで発見した問題の対応策を検討します。

想定外の課題が発見されることもあるので、マネージャーの能力が試されることもあります。

**保守・運用**

無事完成し、リリースされたシステムは保守、運用フェーズに入ります。ここまでくるとプロジェクトマネージャーは別の人に変わることが多いです。

要件定義書、設計書などを取りまとめて、運用担当に保守運用に必要な資料として渡すところまでをおこないます。

**プロジェクトマネージャーとプロジェクトリーダーの違い**

規模の大きなプロジェクトに置かれるプロジェクトリーダーは、プロジェクトマネージャーとは役割の全く異なる職種です。プロジェクトの推進役となるプロジェクトリーダーには、開発現場での経験豊富なシステムエンジニアやプログラマーなどが就くことが多いです。

一方、予算やスケジュール管理などのマネジメントが中心となるマネージャーの場合は、プロジェクト全体の責任を負うことも大切な仕事となります。そのため、システム開発のスケジュール遅れや、品質などの問題でクライアントに迷惑がかかったときには、プロジェクトを代表するマネージャーが最後まで責任を持ってお客様対応をするのが一般的です。

**プロジェクトマネージャーへのキャリアパス**

プロジェクトマネージャーへのキャリアパスは、IT業界における他の仕事と比べて多様化している傾向があります。

まず、古くから見られるケースとしては、大規模プロジェクトの多い会社でプログラマーとして経験を積み、そこからシステムエンジニア、プロジェクトリーダーと徐々にステップアップをして、最終的にプロジェクトマネージャーになる流れです。この方法には、同じ会社の中で先輩たちの指導を受けながら、少しずつプロジェクトマネージャーの役割を学べる利点があります。

プロジェクトマネージャー補佐（PMO）として仕事を始めたときには、この職種の中で議事録作成やスケジュール管理、お客様とのコミュニケーションなどを学びながら、管理者としての役割をより深く習得し、最終的にプロジェクトマネージャー間の調整もできるシニアマネージャーになれる場合もあります。

一方でソフトウェア開発から、アプリケーションなどの技術職のスペシャリストになった人がプロジェクトマネージャーになる場合は、最新技術の提案や現場のエンジニアとのコミュニケーションが円滑に図れる管理職になっていくことでしょう。

このように多彩なルートが用意されているプロジェクトマネージャーなら、既にIT業界で働いているプログラマーやシステムエンジニアなどでも、今から知識や経験を積み重ねることで十分に目標の達成が可能となります。

**プロジェクトマネージャーは全体の責任を負う大切な仕事**

プロジェクトマネージャーとして開発現場で活躍するには、技術職とは大きく異なるマネジメントにかかるスキルが求められます。また、一定以上の技術職経験や知識も必要となるこの職種へのキャリアアップを図るには、プログラマーやシステムエンジニアといったプロジェクトマネージャーよりも下流工程の作業に携わりながら、幅広い仕事を覚えていく必要があるでしょう。

将来的にプロジェクトマネージャーになりたいと考えている人は、まず自分に今備わっている知識や性格面を徹底的に見直し、若いうちから足りない部分を少しずつ補う取り組みを実践してみてください。